

【編 集 後・記】

編集委員の役割を満身に果たせなかったものが後記を書くことになるのは、これも何かのめぐり合わせであろうが、掲載論文はいずれもボリュームたっぷりの力作揃いである。

各論文のテーマは多彩でありながらも、歴史と現実そして理念の問題とかわるアクチャリティーを孕んでいる。個別的なディテールに宿る有意味な問題を方法的な自覚のもとに実証的に（実証主義的ではない！）説明するところに社会科学的な専門研究の真髄があるとすれば、本号掲載の各論文はその醍醐味を堪能させてくれるはずである。

（姜 尚 中 記）